

027  
544  
1

停  
新  
百  
韵  
全



027  
544  
1



愛知女子  
第 11784 號  
書圖

俳諧條々



- 一 好悪ハ付れ 調々トテ 齊奉
- 一 池々々ハ人ノ 善涯トシテ
- 一 一人ノ 才人トシテ 廻リテ 奉
- 一 碎々々ハ 眼ハカク
- 一 子々々ハ 分別カク 奉

12411  
544

右の條に、ある茶の石倉より  
なすをたぐるといふの事、  
一々を其のまゝに  
す

中川乙由

星山及朱

月日

漢兵

圓五

風乃一日吹く所より、  
馬とよし、  
舟掛くか、  
あれ、  
その、  
い、

つ初れ 杜海棠 今宵乃 日 水車  
風花や くせと さるれ 夢 考  
とくさくさ 心 是れ かの 花 やし 由  
ふくふく 行 くの 夢 せよ 夢 友  
新垣と 戸 花 窓 へ 門 へ 向 へ 止  
富乃 花 の けり 照 世 居 る 妻  
一 旦 比 ち ち ち ち 永 代 ち ち ち 在  
曾 哉 ぬ 此 後 所 ち ち ち 甫

玉果の 白 此 さら ぬ や 花 若 ち 友  
夜 夢 ち ち ち ち ち 露 何 可 由  
おと 窓 掛 け 野 山 ち ち ち 夢 考  
と や 富 ち ち ち ち 日 花 ち ち 止  
か ち ち ち ち ち ち ち ち ち 止  
田 以 乃 ち ち ち ち ち ち ち 在  
と ち ち ち ち ち ち ち ち ち 甫  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち 友

二  
京流三日祝しお卯宗と上

い凡んかれ争れ仲崎

原きしてわくねや明の元由

ゆ品乃高と此皇統と考

持除りれ等抄も小僧も在

蘇子乃聖此四月申旬酉

書流の場此卯とれ言物と友

あえこ一ゆ聖の瑞帽子由

可風れく六卯年意ハとく考

上○れ解の今く一和意上

す白十りくくれ言兼れく一

六口此持りり一り此意考の

ゆめかたて流をきれ考れ日

一西白一序乃○一り此意考

芭蕉意考れ此のく之れ初れと由

ふあふらるるる三事終り飽考

旨

旨

くもつたの行空を雲揚るゝ止

余ふよは物を定敷座をこま

水く沈くあつたのさぐりくを

冬或は梅れまのさくを

門かゝる雲霞既よこす赤寺

取せよ人れば必れ名はよ

帷子もろひのさぐりくは丸月

月見すぬはすこ夜乃月止

吾儘通れ時在狩れきか

くさくさつれく旅か

小使代して旅よのそと

三 右文をさるれりくを降

ふかき所いりすくをさるる生と蘭田

長四よあつた今をな

世のわいさうさあめりくをけ止

日のみくさく月く

寄信く礼の意のハ枯すも  
南  
あきくくくくくくくくく  
古  
高<sup>ケ</sup>くくく村あふれくくくく  
由  
一船くく河原まこく糸川音  
友  
婦くくおののくくくくく  
止  
中人あはく琵琶河くく  
止  
くくくくくくくくくく  
止  
治そくくくくくくく

味<sup>燗</sup>とくくくくくくく  
由  
夕了れくくく二階くく  
友  
くくくくくくくくくく  
止  
いつくくくくくくく  
友  
振神くくくくくくく  
止  
国北地系乃愈れくく  
止  
あやけくくくくくく  
止  
きくくくくくくく

日暮にやむきと詩くくく  
六

却てぬきとく橋りきびや  
由

何たりや買りきくはくまられや  
友

軍り了仲りて是歎 ぬ六  
止

おのりやあはは雪れはきき居  
生

門とあけり何くもきり居  
在

茶釜を食さくきりや地  
由

と来れぬ所を又長くたも  
有

留他ちろやすけきき言れ神理を  
止

くもぬきと丸を望て居る所を  
友

やまといふ時よりまは後とすけ物  
止

いふの程又うこられやのふ  
井

花れあす十粒れはのき果衆や  
在

流りあさくもれはるる流る  
由

雛ハハも来れ仲河邊より  
友

朝ハハも来れくつ月かき  
由



あまの人とくは八尾のいづるさき

何とこいふ乃汁茶より

有明の拍子とつづき曇るる

那より中と北一宿松風

主良の口しすかた長ら前

和月比すのなきあくる

しつゝを魂と北麦乃あくる

ちさい江紅尾此鐘たつし付

之酒とあくるあまのり能汁止

口望照さすくさあくる

程ではさくく山海行の

柱の中と北とあくるちと場

花は今里北とあくる空程の

新百韻乃柳とあくる

京寺町二条上町并筒屋庄兵衛板

